



学校だより 8月号



【TEL 045-933-7652 FAX 045-937-0964】

「できた」「わかった」を重ねられる教室に

校長 三橋 淳子

「いつも通り」が通用しない日常の中、本日で前期前半が終了します。心配していた猛暑の中での登下校が少なくとも7月中は回避できたことに安堵していますが、8月17日の前期後半の開始以降は暑い日が続くことも考えられます。マスクの着脱について改めてご確認いただくとともに、帽子等の使用についてもご配慮ください。

6年生の国語の教科書に、福沢諭吉の「天地の文(てんちのふみ)」があります。明治時代の初めに福沢諭吉が子ども用の習字手本として作ったものの一つとのこと。人々の暮らしの基本となる決めごとが、調子のよい言い回しの中で言い尽くされていて、声に出して読んでみるとなかなか面白いです。

天地日月(じつげつ)。東西南北。きたを背に南に向かひて右と左に指させば、ひだりは東、みぎはにし。日輪、朝は東より次第にのぼり、暮れはまたにしに没して、夜くらし。一昼一夜変わりなく、界(さかい)を分けし午前午後、前後合わせて二十四時、(中略)春夏秋冬三月づ(ず)つ合わせて三百六十日、一年一年又一年、百年三万六千日、人生わづ(ず)か五十年、稚(おさな)き時に怠らば老いて悔ゆるも甲斐なかるべし。

幼いときに努力を怠り、年を取ってから後悔してもしかたがない、だから、後悔のないように、今、努力をおしまないようにするのがよいと福沢諭吉は伝えています。今の時代に置き換えると一般的に人生50年とは申しませんが、いくつになっても一日一日を大切に、日々学びを大切にしていきたいものです。

今年度の教職員の校内重点研究は、教師の視点で身につけさせたい力を明確にした授業、子ども達の視点で「できた」「わかった」の重なる授業づくりをめざして、国語を中心に進めることにしています。言葉の特徴や使い方についての理解を深め、自分の考えを表現できるようにしていきたいと考え、授業における言語活動の充実を図るとともに、国語ファイル、国語辞典等も活用していきます。

新指導要領の実施により教科書も新しくなっています。例えばお子さんと一緒に教科書から言葉探しをしたり、日常の生活の中で使っている言葉に目を向けて話題にしてみたりしていただくことは、お子さんの語彙(ごい)数が増えていくきっかけになります。また、国語の教科書の「この本読もう」等のページでは物語を中心に児童書が紹介されていますので、本を読ませたいけれどもどの本を選べばよいかわからないという方にはお勧めです。夏季休業中に限らず、ご家庭でお子さんと過ごされるひとときに言葉に関わる場面を加えてみてはいかがでしょうか。

「マスクを着用すること」「手を洗うこと」「相手との距離を保つこと」について、子ども達は7月中も可能な限り気をつけて生活していました。また、先月の学校だよりでもお伝えした通り、交通安全について子ども達に指導を重ねているところですが、先日、都筑区内で小学生が亡くなるという痛ましい交通事故がありました。警察の方からも、「横断の確認は歩いているときも自転車のときも、必ず自分の目で見て確認を」と伺っています。ご家庭でも、信号のあるなしに関わらず、横断歩道では自分の目で見て安全を確かめ、手をあげてわたることがお子さん自身の力でできるように、日々ご確認いただければと思います。

子ども達が安心して安全に、確かな学びを通して成長していくことができるよう、教職員一同努めて参ります。引き続き、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。ご心配、ご不明な点がありましたら、いつでもご連絡ください。今後とも、よろしく願いいたします。